

2. 温室ハウスの土壌消毒

病害虫名	防除時期	一般防除方法	注意事項
<p>つる割病 苗立枯病 萎凋病 青枯病 半身萎凋病 疫病など土壌伝染性病 害（野菜の場合は別表 参照）</p>	<p>は種、 植付前</p>	<p>1. クロールピクリン剤 30cm 四方（30×30cm）当り 1 穴 2～3ml を 10～15cm の 深さに注入し、踏みつけなが ら穴をふさぐ。注入後は直ち に厚さが 0.03 mm 以上のポリ フィルムで夏期 7 日、冬期は 20 日間位被覆する。その後 耕起してガス抜きするが、ガ ス抜き期間は、地温が 15℃ 以上の時は 10 日位、地温が 低いときは 20 日～30 日位と する。</p> <p>2. 蒸気土壌消毒 土壌蒸気消毒機で消毒する。</p> <p>3. 熱水土壌消毒 80℃以上の熱水を直接土壌中 に注入して土壌中の病原菌や 害虫を死滅させる。</p> <p>4. 土壌還元消毒 ①フスマまたは米ぬかを 10a 当り 1～2t になるように均一に施 し、トラクター等で耕耘し土壌 に十分混和する。 ②土壌表面を平らに整地後、灌水 チューブやスプリンクラー等 を用いて、むらにならないよ うに 100～150mm 散水する（目 安としては、水がそれ以上浸 透できずに一時的に湛水状態 になるまでとする）。 ③散水後、農ビまたは農ポリで 土壌表面を被覆し、ハウス開 口部も密閉し地温上昇を促す （ほ場容水量以上で地温 30℃以 上に上昇すると土壌の還元化 が進む）。 ④約 3 週間後に被覆を除去し、耕 起できる土壌条件となったら、 施肥・耕起する。</p>	<p>1. 温室、ハウス内の消毒は土壌が乾燥 している場合が多いので、耕起、整 地して 1～2 日前に十分灌水してお く。</p> <p>2. クロールピクリン剤は人体にも有害 なガス剤である。天窓やサイドを開 放し、危被害に十分注意する。</p> <p>3. 有機物が多いと効果が劣る。堆肥や 石灰は消毒のガス抜き後に施用す る。また、過繁茂になる場合が多い ので、施肥量に注意する。</p> <p>4. 熱水土壌消毒、還元土壌消毒の詳細 は、農業農村支援センターへ問い合 わせる。</p> <p>5. クロールピクリンは魚毒に特に注 意する（特別指導事項参照）。</p>